

繁殖和牛の人工授精実施率を増やして妊娠率向上を図る

香川県西部家畜保健衛生所西讃支所

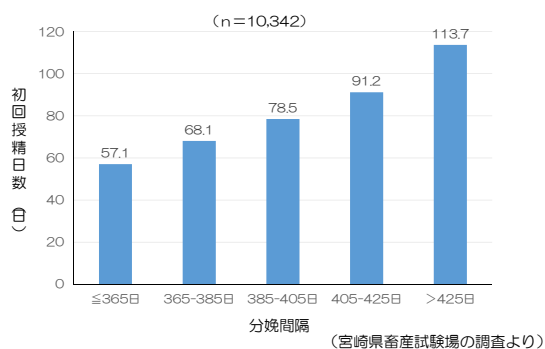
なぜ繁殖成績向上に取り組むのか

香川県 繁殖和牛頭数 1,440頭 (H26年)
 子牛生産頭数 1,140頭 (H26年)
 分娩間隔 421日 (H26年7月時点)
 繁殖牛1頭当たり産子数 0.87頭/年

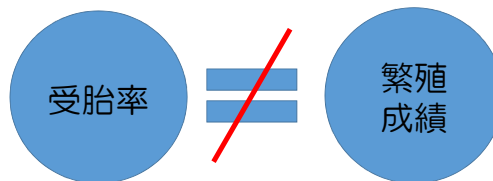


家畜改良増殖目標 (H37年度) である
 分娩間隔12.5カ月 (380日) を達成すると
 繁殖牛1頭当たり産子数 0.96頭/年
県内の子牛生産 130頭/年 増頭可能

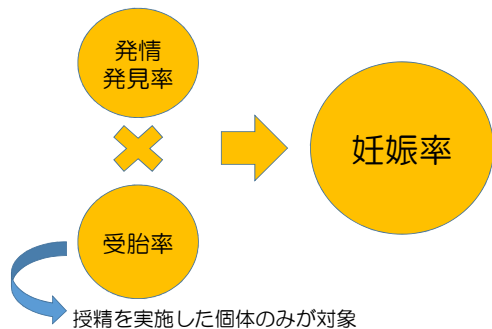
初回授精日数と分娩間隔との関係



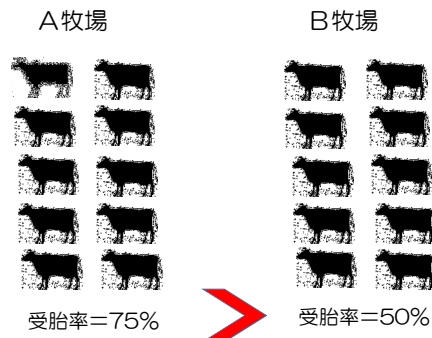
繁殖成績の落とし穴

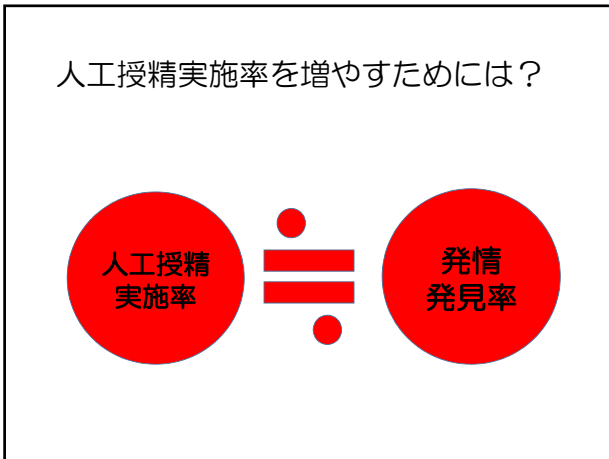
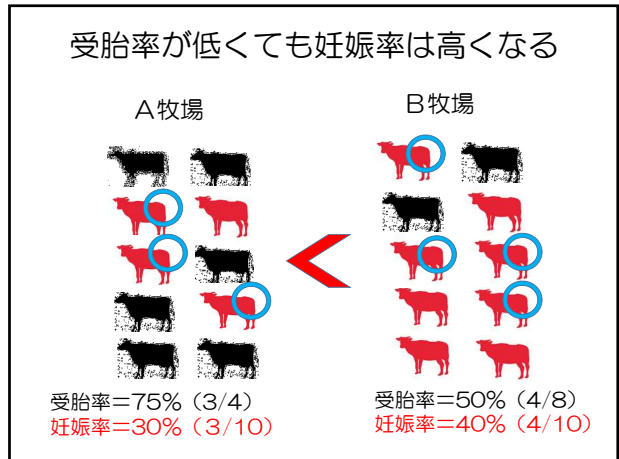
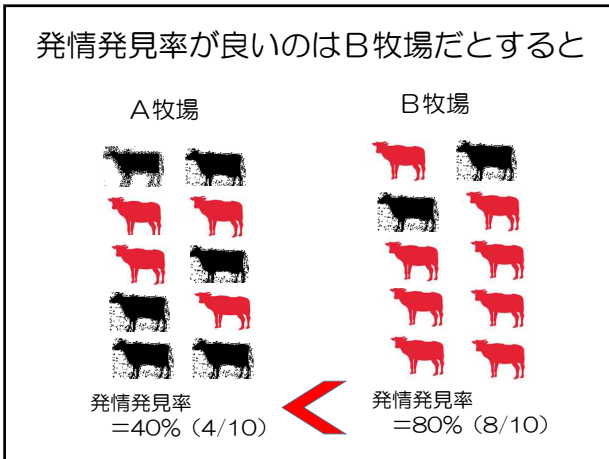


受胎率と妊娠率の違い

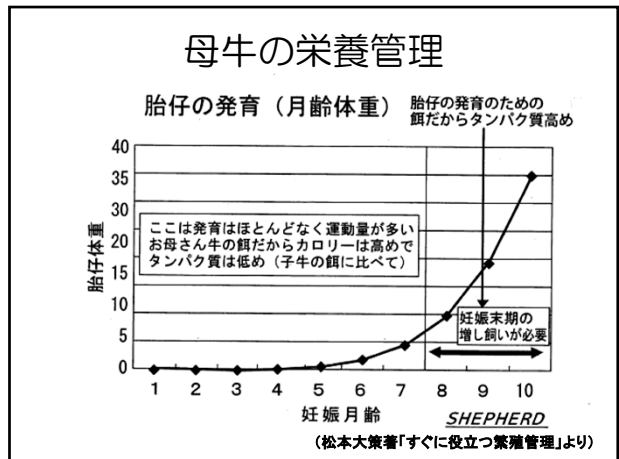
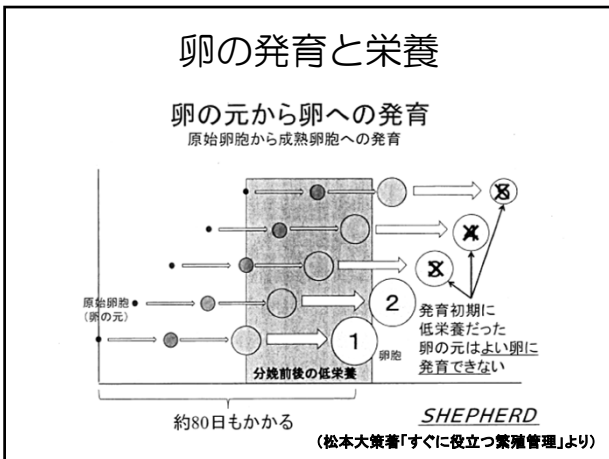


繁殖成績が良いのはどちら？





- 発情が来ない
(鈍性発情・無発情)
- 1 エサのTDN (カロリー) 不足
 - 2 ビタミンA・Eの不足
 - 3 子牛がいつもオッパイにくっついていて
 - 4 肝機能の低下
 - 5 卵胞嚢腫などによる無発情



発情が来ない (じつは見落としかも)

- 1 発情のピークは夜中が多い
- 2 23時～24時の発情確認が有効
- 3 翌朝見つける方法
 - ・ヒートマウントディテクター
 - ・テールペイント
 - ・発情発見器「牛歩」等

それでも発情発見できない場合
どうするか？

定時人工授精

各種ホルモン製剤を用いて、**排卵を同期化**することで、あらかじめ設定した日時に人工授精を実施する技術

一般的な発情同期化法

- 1 プロスタグランジン $F_{2\alpha}$ (PG) 製剤の単独投与
- 2 CIDR (プロゲステロン製剤) の単独投与
またはPG製剤を組み合わせた方法

目的は発情の同期化
発情発見し、授精適期を判断して人工授精する点は、自然発情と変わらない

早期妊娠（非妊娠）診断

- 1 携帯型超音波検査機器の普及により、生産現場での妊娠（非妊娠）診断が従来と比べて、より早く、より容易にできる
- 2 **妊娠していない個体をいち早く発見**することが重要
- 3 不授精牛・不受胎牛を放置せず、個体ごとに具体的な対策を立てる

まとめ

人工授精実施率を増やして妊娠率向上
を図るためには

- 1 分娩前後の母牛の栄養管理が大切
- 2 発情発見や適期の人工授精が困難な牛群においては、排卵同期化処置による定時人工授精が繁殖成績（妊娠率）の向上に有効
- 3 早期妊娠（非妊娠）診断を全頭を実施し、不受胎牛に対して具体的な対策を立てる